⑮猿楽町歌舞伎三座

幕末、江戸文化の華 歌舞伎は浅草で光を放つ

浅草移転で滅亡の危機を免れる

江戸の庶民に親しまれていた歌舞伎三座は天保12年（1841）水野忠邦の改革により、浅草に移転させられる。三座とは、中村勘三郎の中村座、市村羽左衛門の市村座、森田座の控櫓となった河原崎座の3つを称し猿若三座ともいわれていた。以後江戸歌舞伎興隆の場となり、三座にちなんで猿若町という町名が生まれた。

市村座跡

散策のポイント

歌舞伎と弾左衛門のつながり

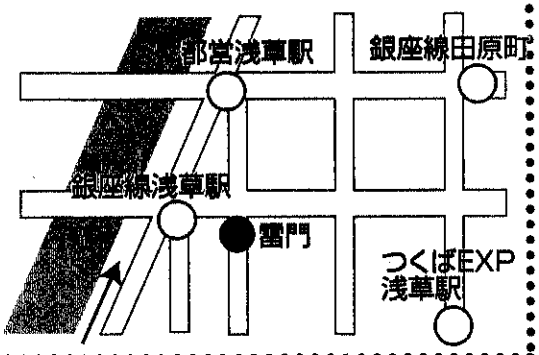
弾左衛門は闇の手配師とも言える仕事をしていた。歌舞伎十八番「助六」は二代目市川團十郎が弾左衛門の悪辣な支配（花川戸の意休）から脱した喜びから製作したとされる。

お帰りは浅草駅から

ご帰宅の交通機関は下記の通りです。

●メトロ銀座線・浅草駅
JR・メトロ等の直近乗り換え駅は上野まで乗り継ぎを

●都営浅草線・浅草駅（京急乗継ぎ）
JR総武線は浅草橋で乗り換え



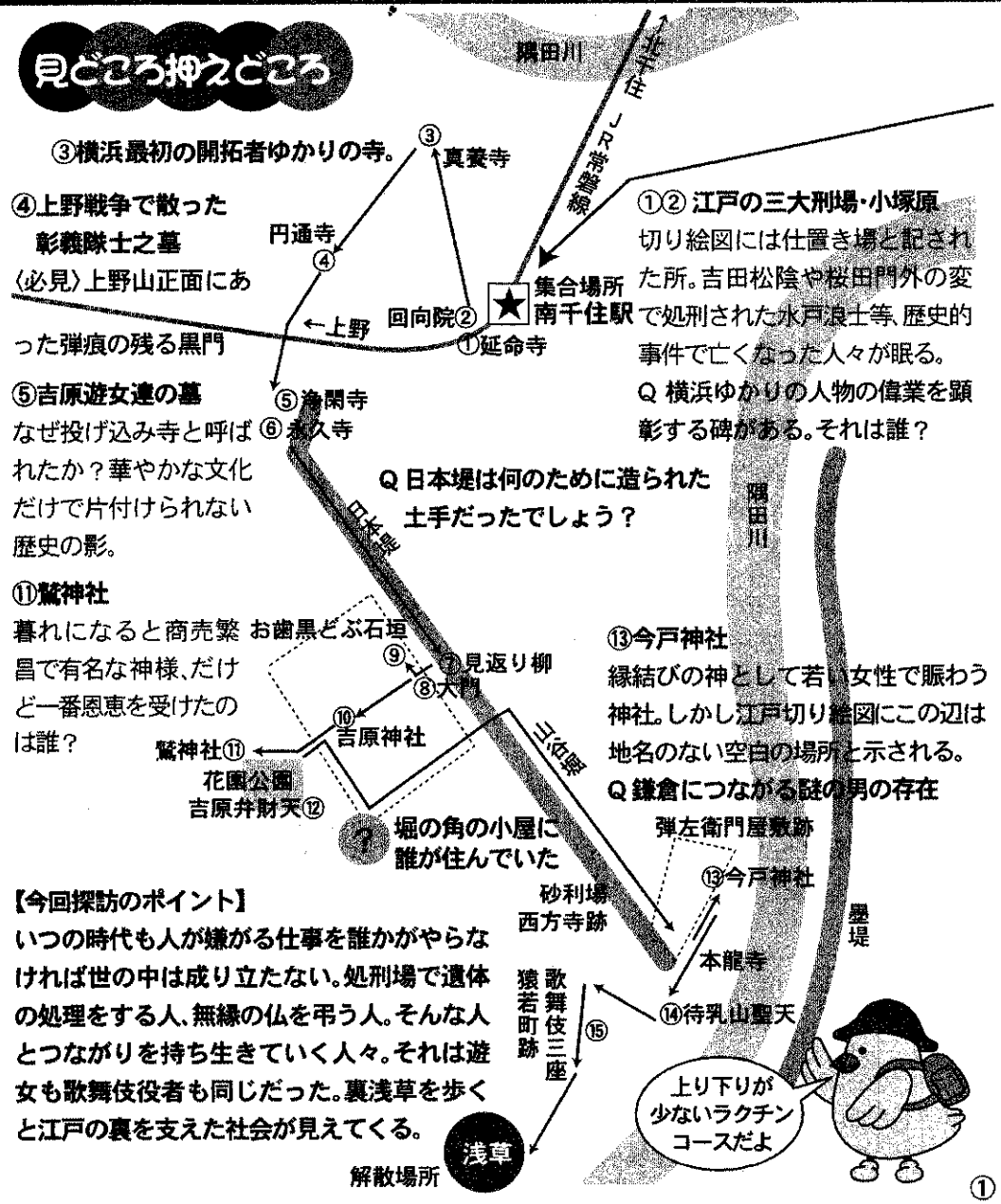
'20横浜歴史研究会 秋の歴史散歩

江戸文化の光と影－裏浅草を歩く

令和2年11月22日（日曜日）

ルートガイドBOOK

見どころ押えどころ



③横浜最初の開拓者ゆかりの寺。

④上野戦争で散った彰義隊士之墓
〈必見〉上野山正面にあった弾痕の残る黒門

⑤吉原遊女達の墓
なぜ投げ込み寺と呼ばれたか？華やかな文化だけで片付けられない歴史の影。

①② 江戸の三大刑場・小塚原
切り絵図には仕置き場と記された所。吉田松陰や桜田門外の変で処刑された水戸浪士等、歴史的事件で亡くなった人々が眠る。
Q 横浜ゆかりの人物の偉業を顕彰する碑がある。それは誰？

Q 日本堤は何のために造られた土手だったでしょう？

⑪鷲神社
暮れになると商売繁昌で有名な神様、だけど一番恩恵を受けたのは誰？

⑬今戸神社
縁結びの神として若い女性で賑わう神社。しかし江戸切り絵図にこの辺は地名のない空白の場所と示される。
Q 鎌倉につながる謎の男の存在

? 堀の角の小屋に誰が住んでいた

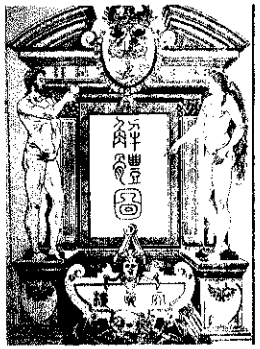
【今回探訪のポイント】
いつの時代も人が嫌がる仕事を誰かがやらなければ世の中は成り立たない。処刑場で遺体の処理をする人、無縁の仏を弔う人。そんな人とつながりを持ち生きていく人々。それは遊女も歌舞伎役者も同じだった。裏浅草を歩くと江戸の裏を支えた社会が見えてくる。

①首きり地蔵の寺 延命院　②江戸の刑死者を弔った 回向院

歴史人の慚愧の念が彷徨う江戸三大刑場小塚原

放置された屍を両国回向院住職が弔った

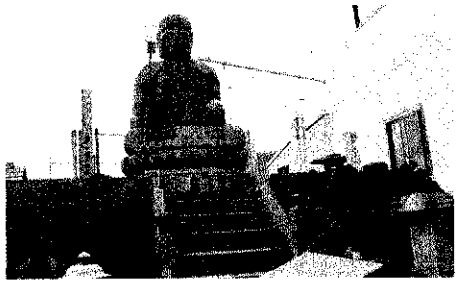
小塚原刑場は、大和田刑場、鈴ヶ森刑場と並ぶ江戸の三大刑場の一つである。明治初年に廃止されるまで処刑された人は約20万人と云われる。江戸初期の小塚原刑場は、死体は埋葬されず野に晒された状態だった。そのむごたらしい様相を見た両国回向院の住職が、刑死者や牢死者を供養するため寛文7年(1667)に創建したのが回向院である。



回向院入口「観臓記念碑」に模されている解体新書表紙

草莽の士 吉田松陰、橋本左内が眠る

墓所には、安政の大獄で獄死した吉田松陰や橋本左内らの墓所がある。また、杉田玄白や前野良沢らがここで刑死者の腑分けに立会い、それをきっかけに「解体新書」を翻訳した。本堂入口右手にこれを記念した「観臓記念碑」が建てられている。



江戸時代はこんな殺伐とした場所にあった

隣の延命院は寛保元年(1741)刑死者を弔うために建てられた。寺には無縁となった人々を供養するために首切地蔵がある。

散策のポイント

刑死した者などの死体の処理を誰が行ったのか?穢多(えた)と呼ばれる者たちが行っていた。穢多とは穢(けが)れの多い者との意味である。この散策で学ぶ江戸社会の影の部分である。

③横浜吉田新田の開発者 吉田勘兵衛建立の宝塔がある　真養寺

吉田新田の開発者 勘兵衛の手始めはこの地から

横浜吉田開発までのみちのり

吉田勘兵衛は慶長16年(1611年)に摂津国能勢の戦国大名波多野一族の子として生まれる。血縁関係のある能勢領主・能勢頼次に従って江戸に移り、日本橋本材木町に住み木材・石材商をはじめる。商売が繁盛し、幕府御用達となり、江戸城の修理も行った。農業経営にも関心を持ち隅田川沿いの湿地帯、千住中村の音無川流域の湿原(現在の南千住付近)を干拓する。新田からは700~800石の収穫を上げたが、幕府から社の建立を許可される1000石には届かなかった。

真養寺

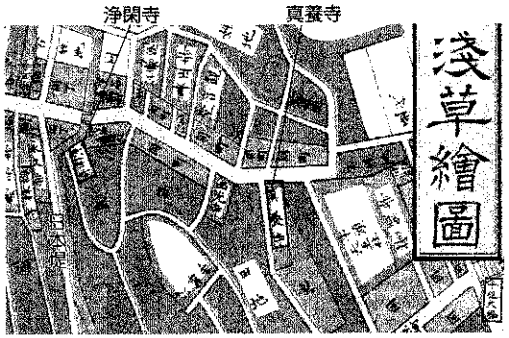
＊宝塔は寛文11年(1671)に勘兵衛が建立。下部に吉田勘兵衛の文字が確認できる。

横浜の新田開発に取り組む

そこで埋め立てに適した横濱の入海に目をつけ、明暦2年(1656年)に幕府の許可を得て新田の開発に着手する。

彼の子孫は代々この新田に住み続けることとなる。また、江戸の木材・石材業はその後、起立人として札差業を営むなど隆盛を誇ったが、やがて番頭に店を譲渡し、子孫も横濱の地へ移住した。勘兵衛は貞享3年(1686年)に没、横浜久保山に眠る。

真養寺は、元は自性院と呼び、勘兵衛が開拓した当地に吉田家の菩提のために万治2年(1659)に創建したものである。当時の本堂は勘兵衛が寄進している。



散策のポイント

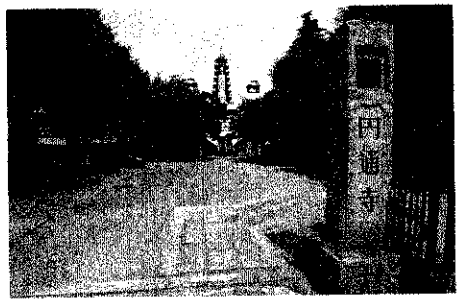
真養寺1659年、回向院1667年、投込み寺浄閑寺1665年など散策で訪れる寺の創建は明暦の大火(1657)以降の浅草寺町形成期である。一帯の開発時期と重なる。

④旧寛永寺黒門が移築された寺　圓通寺

1200年の歴史を持つ古刹に小塚原の由来があった

上野戦争激戦の弾痕が残る黒門

曹洞宗の寺院。奈良時代末の延暦10年(791年)、坂上田村麻呂が創建したと伝わる。江戸時代、下谷広徳寺、入谷鬼子母神真源寺とともに「下谷の三寺」とよばれていた。慶応4年(1868年)に上野の山内で戦死し,放置されたままになっていた彰義隊の遺体をこの寺の23世住職佛磨和尚が供養して埋葬した。これが縁となり,上野寛永寺8門のうちの正門であった黒門が明治40年(1907年)に現在地に移築されている。



戦いの弾痕が残る門

◆寺に残る史跡の数々

旧上野黒門…上野戦争の弾痕が残る旧寛永寺黒門が移築されている。

四十八首塚…首塚は、源義家が奥州征討の際、逆賊らの首級48個をこの地に埋めて「首塚」を築いたと伝える。その上に石造七重塔が立つ。小塚原の名の由来となる。

彰義隊士の墓…彰義隊戦死墓は榎本武揚らの手によって建立。彰義隊頭取-天野八郎、新門辰五郎碑、永井尚志追悼碑などがある。

吉展地蔵…戦後世間を震撼させた誘拐事件の被害者、吉展ちゃんを弔う地蔵。

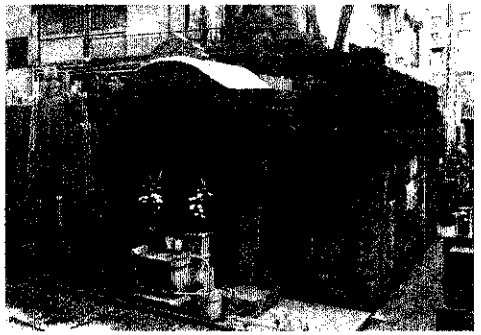
彰義隊士の墓

⑤遊女たちの悲しい定めに思いを寄せる　浄閑寺

新吉原から日本堤の西端に歴代の遊女達が眠る

生まれては苦界　死しては浄閑寺　花酔

明暦元年(1655)創建。安政の大地震(1855)の際、大勢の新吉原の遊女が投げ込むように葬られたことから「投込寺」と呼ばれるようになった。寺には檀徒のほかに、遊女やその子供の名前を記した幾十冊の過去帳(寛保3年(1743)～大正15年(1926))が現存する。境内には新吉原総霊塔や永井荷風の筆塚を始め、数多くの史跡がある。



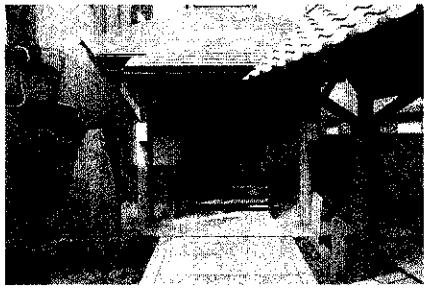
若紫の墓
墓所入口右側

(上)新吉原総霊塔
(左)明治の楼内一の遊妓と呼ばれた若紫。狂客の刃に罹り22歳で非業に死を遂げた。

⑥江戸五色不動のひとつ目黄不動　天台宗永久寺　　創建年代不詳

五行思想の五色(白・黒・赤・青・黄)の色にまつわる名称や伝説を持つ不動尊の一つ

目赤不動　南谷寺文京区本駒込
目青不動　最勝寺世田谷区太子堂
目白不動　金乗院豊島区高田
目黒不動　瀧泉寺目黒区下目黒



散策のポイント

寺から吉原への道筋、日本堤の左側が土手の斜面になっているのにご注目!

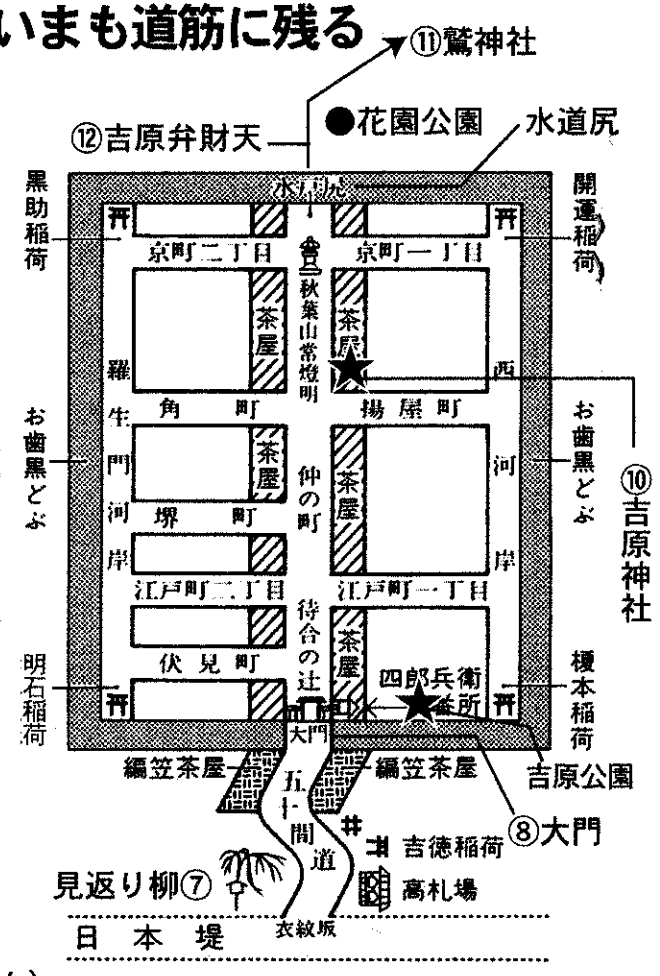
江戸の栄華の面影がいまも道筋に残る

新吉原の始まり

元吉原は江戸の始めに幕府公認の遊廓として今の人形町界隈にできた。その後江戸の発展と共に、風紀上からここ千束村に移転した。それが偶然にも明暦の大火（1657）と重なった。

⑦今日ももてたと思い振り返る柳

吉原で過ごした時間を思い出しながら振り返ったことから名付けられた。



⑧新吉原唯一の出入り口 大門（おおもん）

江戸時代、吉原の人の出入りは大門のみだった。明治5年芸娼妓解放令が出ると水道尻が開き通りは抜けられるようになる。

遊女の前借金や拘束は無効となり、従業員扱いとなるが、その実態は変わらなかった。

大門から仲之町

⑨お歯黒どぶ…遊女の逃亡を防いだ掘割。

吉原公園に石垣の名残りと堀の段差が確認できる。どぶのあった場所を通る時も注意して観察を。 散策のポイント

お歯黒どぶの石垣

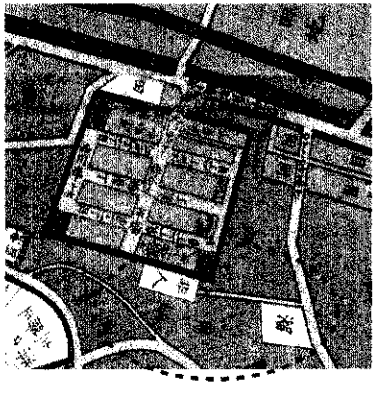
⑩廓の祭神を合祀した吉原神社

かつて吉原遊廓にお祀りされていた五つの稲荷神社と遊廓に隣接する吉原弁財天を合祀した神社。吉徳（よしとく）稲荷社、明石（あかし）稲荷社、開運（かいうん）稲荷社、榎本（えのもと）稲荷社、黒助（くろすけ）稲荷社の五つの稲荷神社に、倉稲魂命（うがのみたまのみこと）を御祭神としている。

吉原神社

⑫吉原弁財天…御祭神は市杵島姫命（いちきしまひめのみこと）で、吉原神社にお祀りされていると共に、現在でも本宮が大切にお祀りされていて信仰が続いている。

吉原弁財天



吉原廓外に隣接　非人頭-車善七屋敷跡

浅草の非人頭として代々世襲した車善七。寛文6年（1666年）以降、江戸の新吉原の隣接地に移り住居を構えていた。配下の非人小屋は300軒を超え、小屋が持つ勧進場からの収入で生活を営んだ。江戸の非人頭の中では最も勢力を誇っていたが、浅草弾左衛門と利権争いがあり、敗れて長吏頭弾左衛門の配下となり幕末に至る。

⑪商売繁昌を願うお酉様-鷲神社

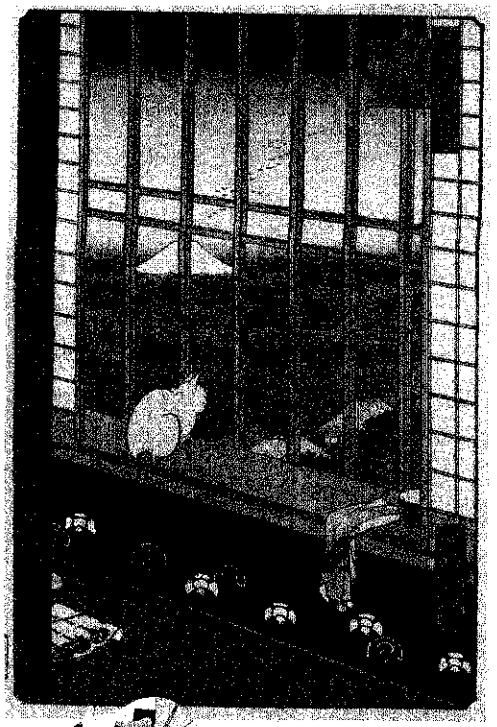
お酉様の賑わいは吉原の繁盛につながった

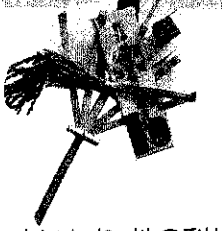
遊女も眺めた酉の市の祭礼

天日鷲命（あめのひわしのみこと）日本武尊（やまとたけるのみこと）をお祀りした鷲神社。「おとりさま」として親しまれ崇敬を集めており、十一月の例祭「酉の市（とりのいち）」として広く知られる。

春を待つ　ことのはじめや　酉の市（其角）

右の浮世絵（広重）は吉原の遊女の部屋から見た酉の市の風景。猫が眺める先の田圃道には祭礼の行列、窓下に熊手のお飾りがちらりと見える。





鷲神社の熊手御守は開運・商売繁昌のお守りとして「酉の市」のみに授与される。

酉の市　豆知識

江戸時代、酉の市の日には遊郭内が開放されたといわれ、地の利も加わり最も有名な酉の市として知られる。祭りの時、熊手の他に大きな芋が売られている。八頭といい、古来より頭の芋（とうのいも）とも呼ばれ、人の頭に立つように出世できるといわれ、さらに一つの芋からたくさんの芽が出ることから「子宝に恵まれる」という縁起物である。

また年の瀬を告げ、正月用の餅菓子である切山椒（きりざんしょ）がある。「切山椒」は上新粉に砂糖と山椒の粉を加えてついて薄く延ばして短冊形に切った餅菓子。

注意　今年の酉の市は、コロナ感染対策のため規模縮小、応募による入場制限を行っています。
散策当日は例祭日ではありませんが、制限があるかもしれません。

吉原から山谷堀・隅田川へ向かう

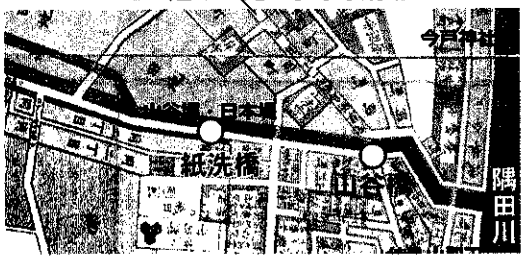
裏浅草は江戸の闇に蠢く者たちが犇めいていた

山谷堀から吉原へ続く日本堤、奥が新吉原

したたかに生きる最下層の街

花川戸-山谷-今戸一帯は再生紙や安物の器（今戸焼）、皮革を扱う職人達の街だった。決して華やかではなく社会の底辺で生き抜く者たちのたまり場でもあった。

この道の↖先に小塚原刑場がある



山谷堀…江戸の町を洪水から守るため、待乳山を削った土で造られた日本堤の北側に通された。日本堤の名称は、堀が2本あったことからとも言われる。

紙洗橋…山谷堀周辺では浅草紙が生産されており、鼻紙や落とし紙として使用されていた。堀の水は「ひやかし」(紙漉きの工程)に使われていた。すきかえしの紙を製する者が「ひやかし」の待ち時間に近くの吉原を見物しに行くだけで、登楼することはなく、「ひやかし」の言葉が生まれた。

山谷橋（吉野橋）

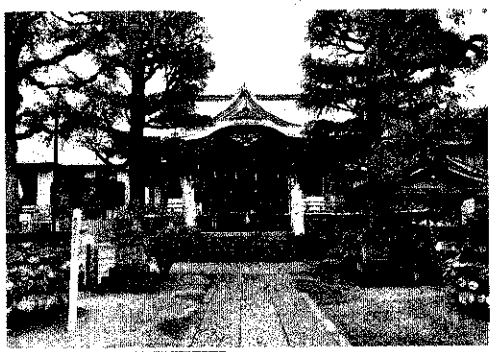
浅草橋、蔵前、浅草、千住と続く奥州街道が山谷堀に架かる橋。付近には船宿や八百善などの店が並んでいた。

⑬弾左衛門屋敷の白山神社を合祀した今戸神社

今戸神社は空白の浅草弾左衛門屋敷跡だった

いまは縁結びの神として賑わう今戸神社

今之津八幡神社に隣接地の白山神社を合祀し、今戸神社と改称（昭和12年7月）。源頼義・義家父子が、勅令によって奥州の安部貞任・宗任の討伐の折、鎌倉の鶴ヶ岡と浅草今之津（現在の今戸）とに京都の石清水八幡を勧請したのが今之津八幡の創建になります。



沖田総司終焉の地

肺を病んでいた新選組沖田は江戸に来て、今戸の称福寺にいた幕府典医松本良順の治療を受けたが亡くなった。

人が忌み嫌う仕事を牛耳る闇の集団

この地にあった白山神社は長吏頭*矢野弾左衛門の屋敷、浅草新町の守り神だった。江戸の地図では空白に示されいるが、いまはその痕跡は何もない。弾左衛門は、非人頭の車善七も配下におき、帯刀を許され、扶持は一万石、金融業も営み財力は五万石の大名並だった。闇社会のドンは非人の他にも芸能民、一部の職人、遊女屋等も支配下に置いた。

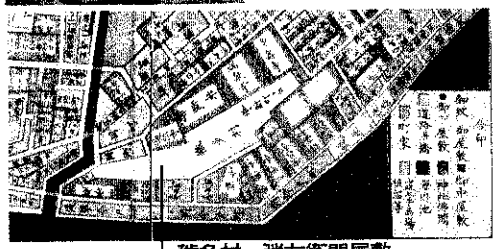
＊ 長吏とは日本における賤民の呼称で、中世には汚多（かわた）・非人の頭目を指していた。

皮なめし

斃牛馬を皮革にする仕事を取り扱った

平時、皮革の取扱いの他、燈芯、雪駄づくり、勧進*の仕切を行っていた。13代最後の弾左衛門は、日本製靴業の端緒を開くが、明治の財閥に利権を奪われ衰退、多くの靴職人は全国に巣立って行った。

*勧進…本来は宗教的な寄付集めの意味だったが、中世以降は物乞い的行為を指すようにもなる。



└穢多村…弾左衛門屋敷

⑭夫婦和合・安産の神　待乳山聖天

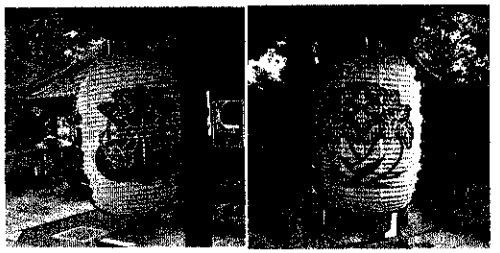
小高い丘に飛鳥時代より続く聖天様の寺

江戸庶民、吉原の訪問者に親しまれた

標高約10mの丘に伽藍を構える本龍院待乳山聖天は、浅草寺の支院のひとつである。聖天さまは霊験あらたかなことで古来より知られ、身体健全、夫婦和合、商売繁昌にご利益があるとして篤い信仰を集めている。本堂では毎朝、浴油祈祷という聖天さま独特の秘法を厳修している。

親愛の大根と金溜まる巾着

境内各所に大根と巾着の印が見られ、大根は身体健全、夫婦和合、巾着は財福の功徳を表わしたものとされる。正月中にご本尊聖天さまにお供えされた大根を調理した風呂吹き大根が御神酒とともに参拝者に授与され、大いに賑わう。



本堂から見える江戸の町。左手の眼下に猿若町の芝居小屋の通りが伺える。（右）向島の隅田川堤を歩く女性。川向こうに山谷堀の船宿の明かりと待乳山が薄ぼんやり見える。